

# 令和3年度 学校評価〈集計結果〉

令和3年12月実施

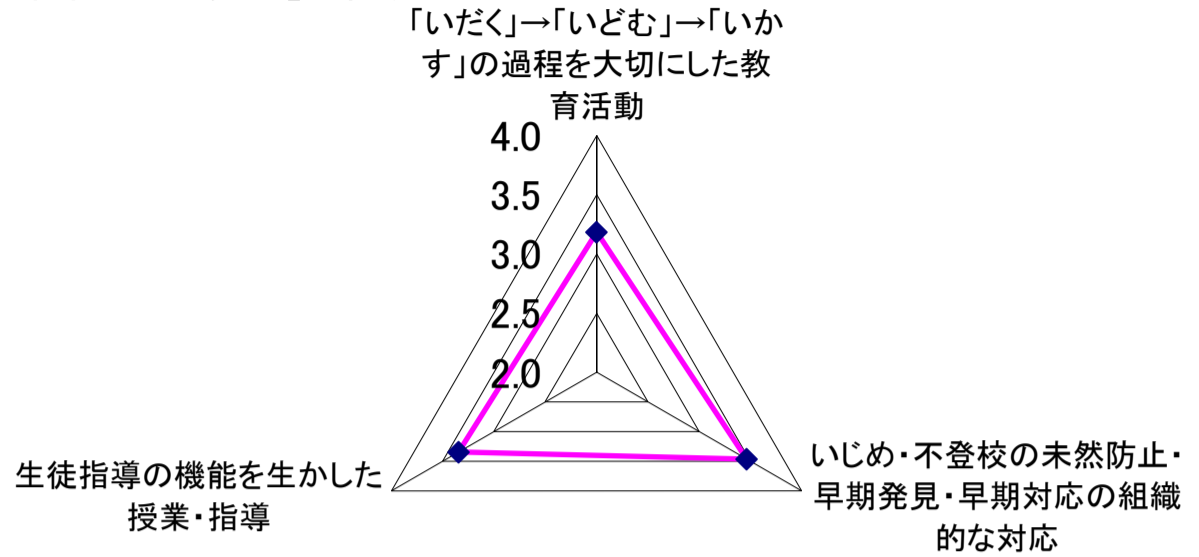
小郡市立小郡中学校(教職員)

## 1. 未来に向かう「心」の育成

大項目評価	<b>3.33</b>	<b>B</b>	
小項目評価	「いだく」→「いどむ」→「いかす」の過程を大切に した教育活動	いじめ・不登校の未然防 止・早期発見・早期対応 の組織的な対応	生徒指導の機能を生か した授業・指導
	3.19	3.46	3.34
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

## 1. 未来に向かう「心」の育成

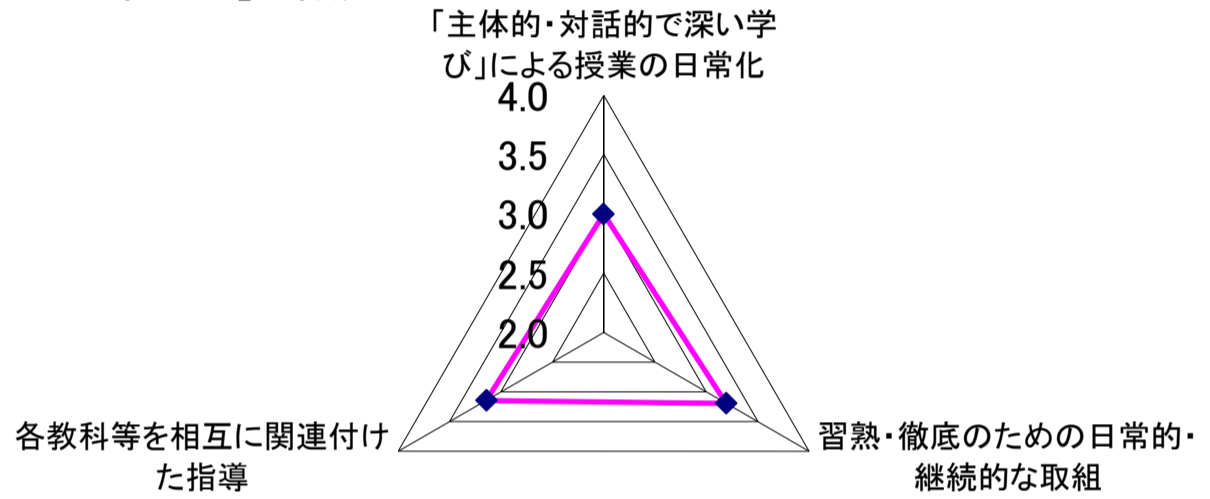


## 2. 生きて働く「知」の育成

大項目評価	<b>3.11</b>	<b>B</b>	
小項目評価	「主体的・対話的で深い 学び」による授業の日常 化	習熟・徹底のための日 常的・継続的な取組	各教科等を相互に関連 付けた指導
	3.00	3.19	3.14
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

## 2. 生きて働く「知」の育成

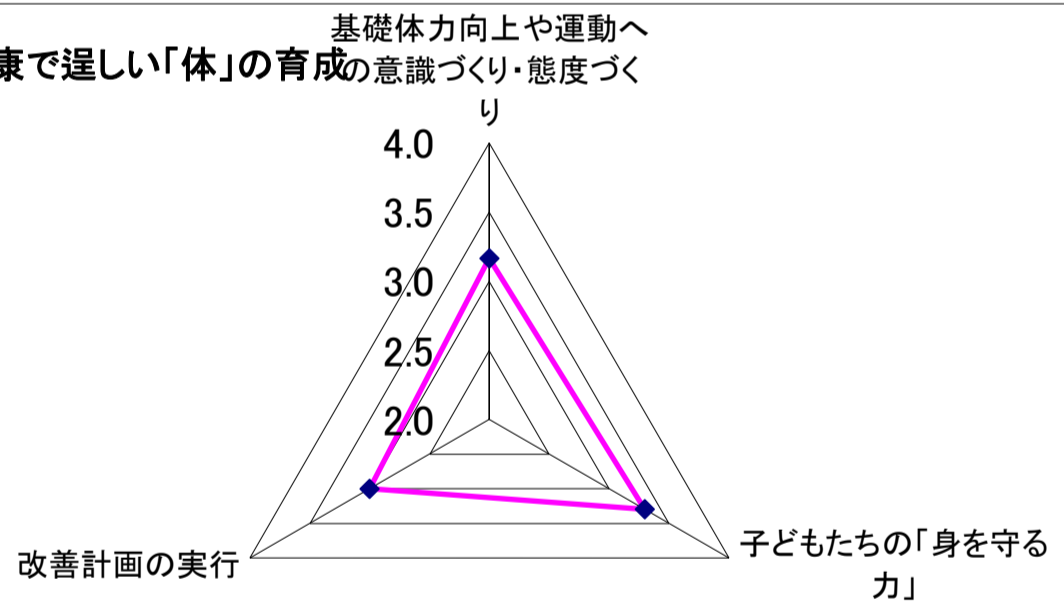


## 3. 健康で逞しい「体」の育成

大項目評価	<b>3.16</b>	<b>B</b>	
小項目評価	基礎体力向上や運動へ の意識づくり・態度づく り	子どもたちの「身を守る 力」	改善計画の実行
	3.17	3.30	3.00
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

## 3. 健康で逞しい「体」の育成の意識づくり・態度づく り

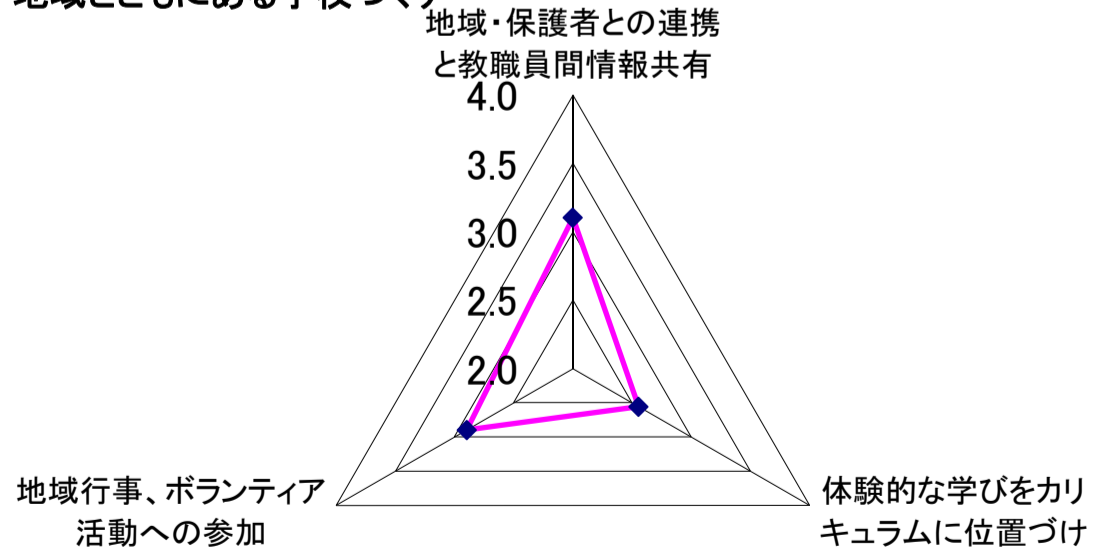


## 4. 地域とともにある学校づくり

大項目評価	<b>2.86</b>	<b>B</b>	
小項目評価	地域・保護者との連携と 教職員間情報共有	体験的な学びをカリキュ ラムに位置づけ	地域行事、ボランティア 活動への参加
	3.10	2.56	2.90
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

## 4. 地域とともにある学校づくり

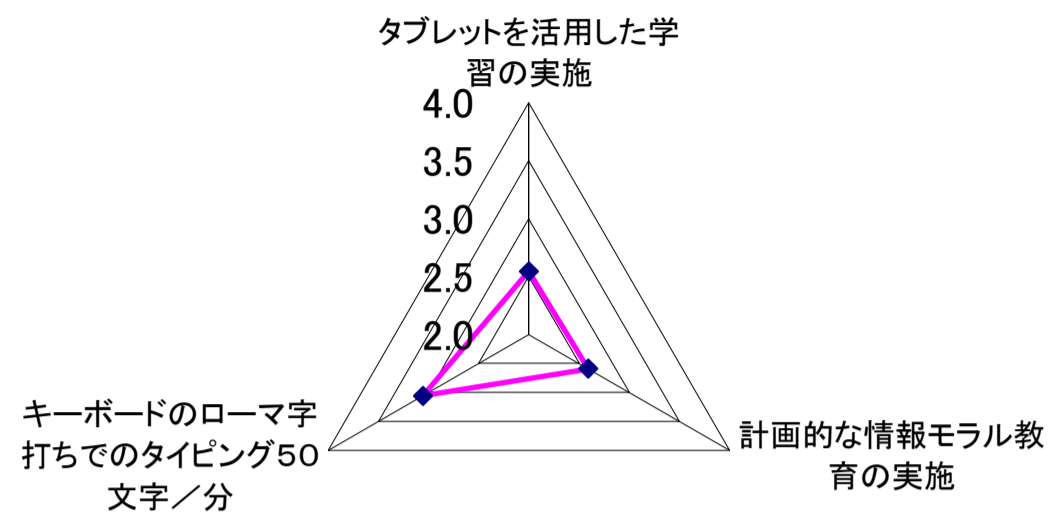


### 5. ICT活用力の育成

大項目評価	<b>2.70</b>	<b>B</b>	
小項目評価	タブレットを活用した学習の実施	計画的な情報モラル教育の実施	キーボードのローマ字打ちでのタイピング50文字/分
	2.55	2.59	3.06
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

### 5. ICT活用力の育成

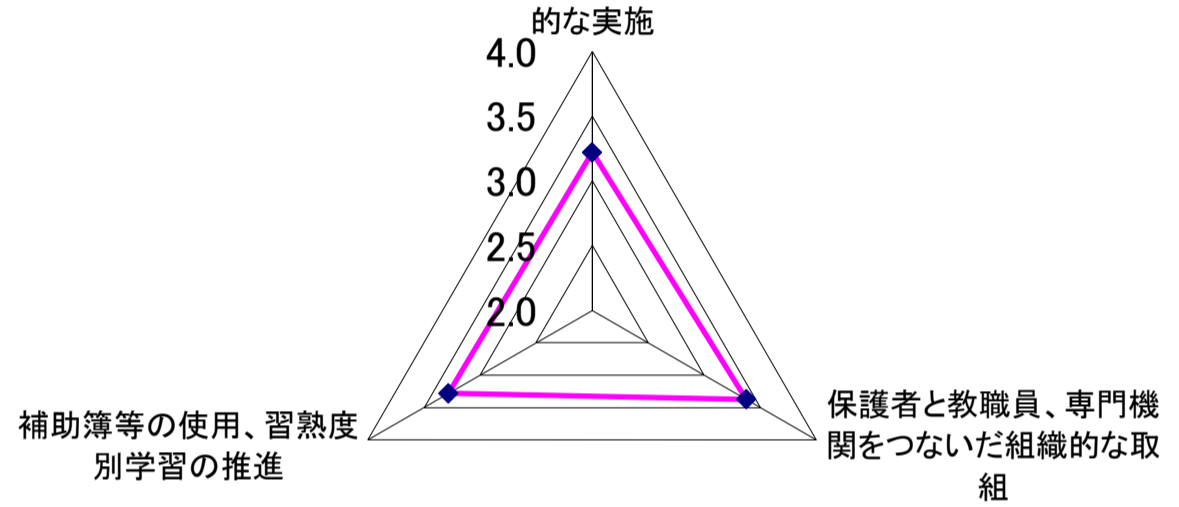


### 6. 個に応じた学びの充実

大項目評価	<b>3.29</b>	<b>B</b>	
小項目評価	「個に応じた学び」の計画的な実施	保護者と教職員、専門機関をつないだ組織的な取組	補助簿等の使用、習熟度別学習の推進
	3.22	3.38	3.28
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

### 6. 個に応じた学びの充実 「個に応じた学び」の計画的な実施

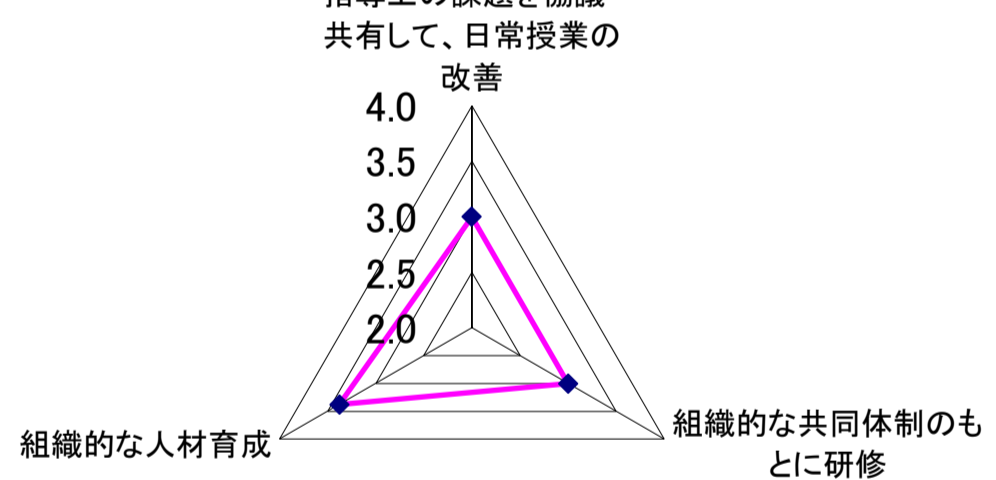


### 7. 教職員の資質向上の推進

大項目評価	<b>3.13</b>	<b>B</b>	
小項目評価	指導上の課題を協議・共有して、日常授業の改善	組織的な共同体制のもとに研修	組織的な人材育成
	3.00	3.00	3.38
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

### 7. 教職員の資質向上の推進 指導上の課題を協議・共有して、日常授業の改善

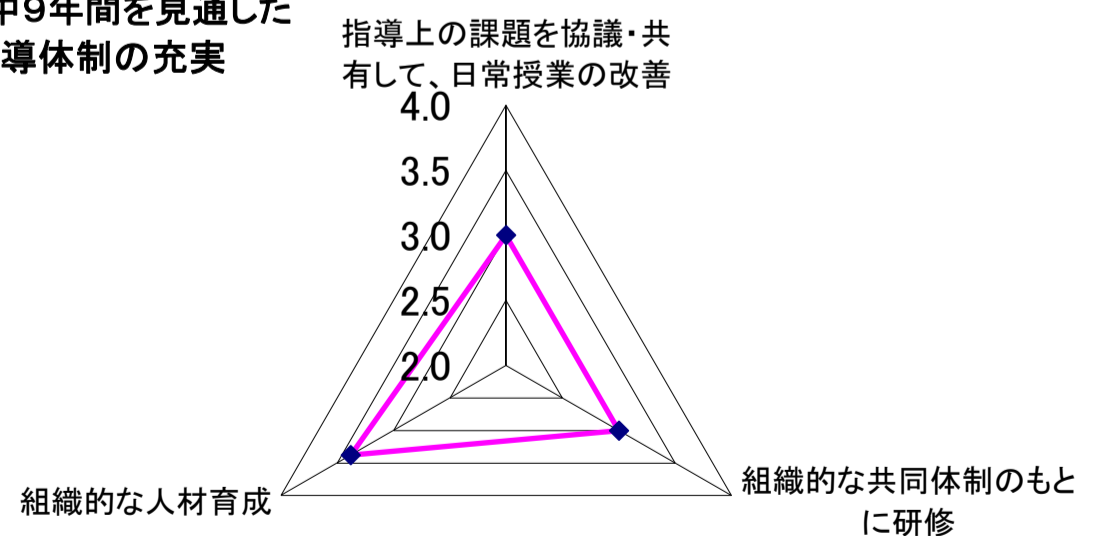


### 8. 小中9年間を見通した指導体制の充実

大項目評価	<b>3.20</b>	<b>B</b>	
小項目評価	小中で共通理解し、統一した授業改善や生徒指導	小学校での学習・生活の状況を踏まえた指導の工夫	中1ギャップの解消
	3.07	3.13	3.39
	B	B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

### 8. 小中9年間を見通した指導体制の充実

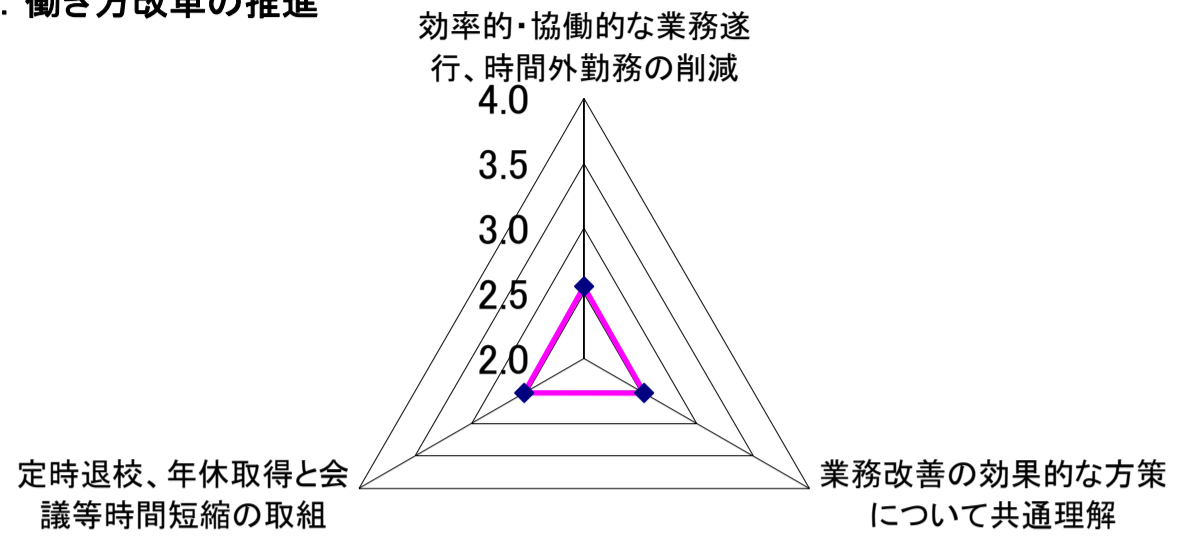


### 9. 働き方改革の推進

大項目評価	<b>2.54</b>	<b>B</b>	
小項目評価	効率的・協働的な業務遂行、時間外勤務の削減	業務改善の効果的な方策について共通理解	定時退校、年休取得と会議等時間短縮の取組
	2.55	2.53	2.53
	B	B	B

4 ≧ A > 3. 5 ≧ B > 2. 5 ≧ C > 1. 5 ≧ D

### 9. 働き方改革の推進

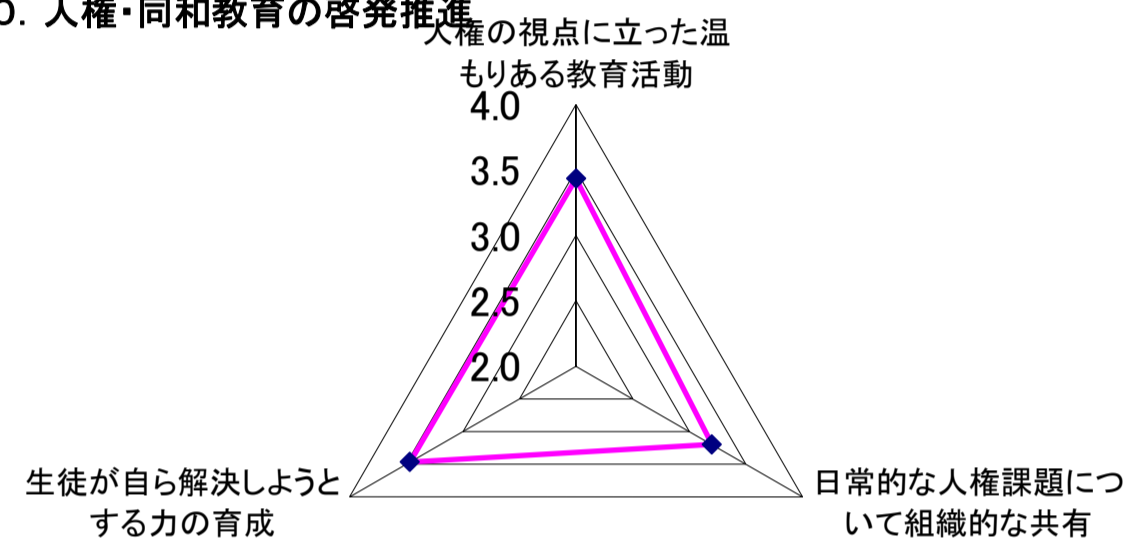


### 10. 人権・同和教育の啓発推進

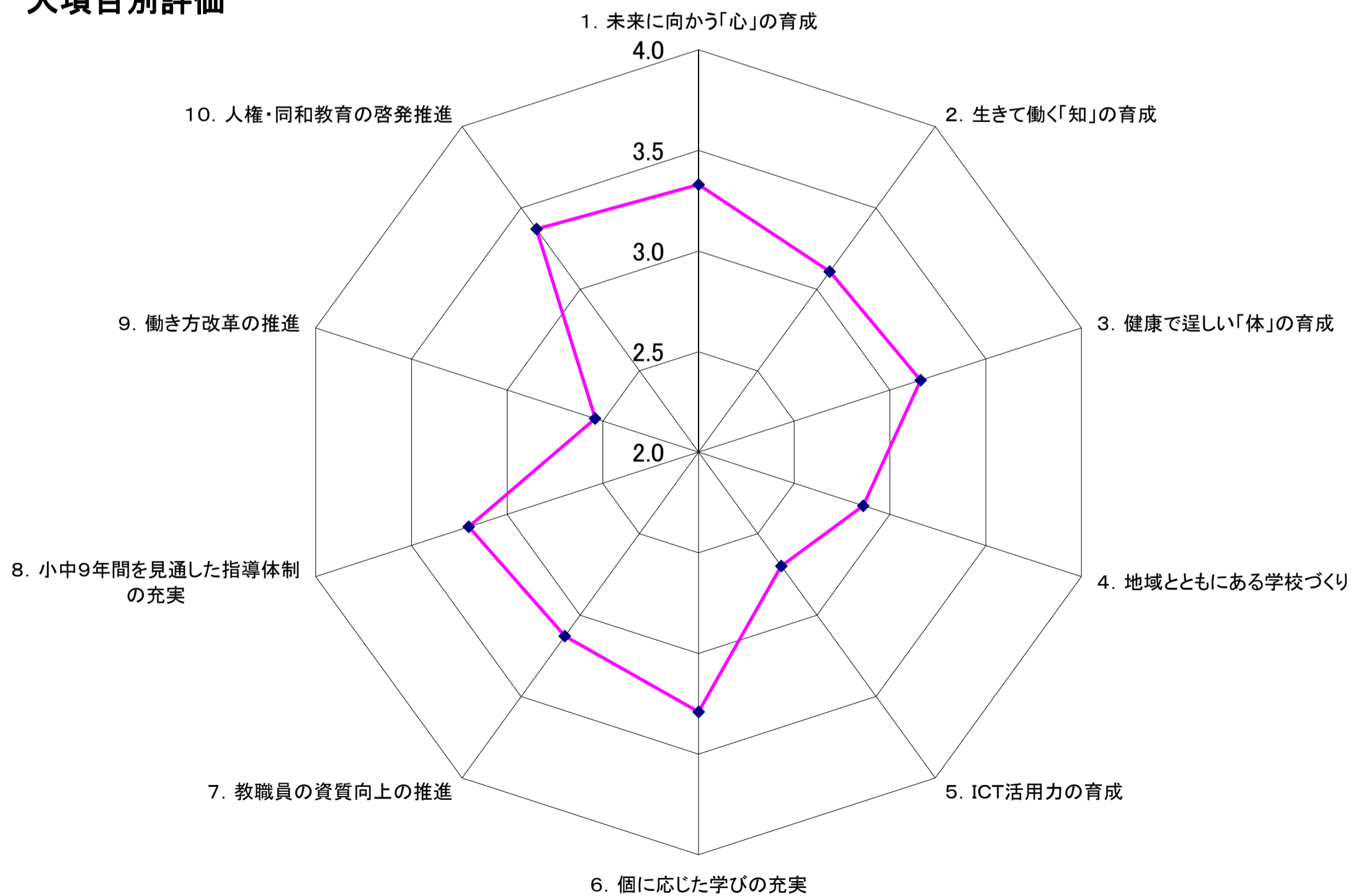
大項目評価	<b>3.37</b>	<b>B</b>	
小項目評価	人権の視点に立った温もりある教育活動	日常的な人権課題について組織的な共有	生徒が自ら解決しようとする力の育成
	3.43	3.20	3.47
	B	B	B

4 ≧ A > 3. 5 ≧ B > 2. 5 ≧ C > 1. 5 ≧ D

### 10. 人権・同和教育の啓発推進



## 大項目別評価



# R3学校自己評価について

令和3年12月実施  
小郡市立小郡中学校

**※□の数字は、本年度数値を表す。なお、評価項目が、本年度から変わったため、前年度との比較による分析は行っていない。**

評価の目安  $4 \geq A > 3$ 、 $5 \geq B > 2$ 、 $5 \geq C > 1$ 、 $5 \geq D$

## 1 未来に向かう「心」の育成 3.33 評価B

### ○「いさぐ」→「いどむ」→「いかす」の過程を大切にされた教育活動 3.19

・学校教育目標「夢と志をもって主体的に学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」の実現に向け、「物事を『自分ごと』として捉え、考え、行動できる生徒」を重点目標に設定し、学校における全教育課程において①自分の行動や感情をコントロールできる生徒②お互いを認め合い、集団の一員として協働していく生徒③自分(たち)の課題の解決に向けて、粘り強く取り組む生徒の実現に向けた教育活動を推進している。

### ○いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応の組織的な対応 3.46

・小郡中学校「いじめ防止基本方針」を基に、月1回の「いじめアンケート」の実施に加え、福岡県教育委員会推奨の「学校生活環境多面調査」を実施し、より詳細な生徒の実態把握に努めるとともに、人権学習等の丁寧な実施により、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めた。  
・不登校の未然防止を図るための「わかる授業づくり」、「不登校予防診断チェックリスト」の実施に加え、諸事情等によって不登校兆候にある生徒の情報交換、サポート教室の実施やすでに不登校状態にある生徒と関係機関(市SSW、子育て支援課、民生・児童委員等)との連携に努めている。

### ○生徒指導の機能を生かした授業・指導 3.34

・日常の授業において自己決定の場面設定や共感的人間関係を構築していくための集団づくり、自己存在感を味わわせることができる振り返り等に取り組んでいる。

## 2 生きて働く「知」の育成 3.11 評価B

### ○「主体的・対話的で深い学び」による授業の日常化 3.00

・校内の研究主題を「主体性をもって、協働しながら課題を解決できる生徒の育成」とし、全教科の教職員が年1回の授業研究を実施。他教科の先生方との、授業における取組に関する意見交流等を実施している。  
・全国学力学習状況調査や福岡県学力調査の結果をもとに、生徒の実態把握に努め本校の課題を明らかにし、日常の授業に重点的に取り組む内容等について確認をしている。

### ○習熟・徹底のための日常的・継続的な取組 3.19

・生徒のつまづきや習熟の程度に応じた授業の改善をどのように図るのかを研究推進委員会が中心となって協議し、協議した結果を全職員で共通理解を図る場を設定するとともに、日常的な取組を試験的に実施した。  
・生徒がタブレットを効果的に活用するためのタイピングスキル向上のための取組を帰りの合唱活動ができない期間に継続的に実施した。

### ○各教科等を相互に関連付けた指導 3.14

・各教科、道徳、総合的な学習の時間。特熱活動等、日々の教育活動の関連に着目して、それぞれの効果が高まるよう、教職員が意識して取組を進めることができた。

### 3 健康で逞しい「体」の育成 3. 16 評価B

#### ○基礎体力向上や運動への意識づくり・態度づくり 3. 17

・筋力を要するもの、瞬発力を要するものそして柔軟性を要するものを中心に保健体育の授業で強化を進めている。本年度の全国体力・運動能力調査（対象 中2）の結果では、男子は1種目を除いて、全国の平均値を超える結果となっている。しかしながら女子については、全種目合計は全国平均を上回っているものの、5種目が全国の平均値を下回るなど、男子と女子に結果の差がみられる。

#### ○子どもたちの「身を守る力」 3. 30

・小郡中学校防災計画に基づき、避難訓練を実施している。特に本年度は、生徒自身が考えて主体的に避難行動ができるように、昼休みの時間帯に、避難訓練を実施し、避難場所には生徒それぞれで集合するといった工夫を行った。

また通学路の危険箇所等については、4月当初の学団会で生徒同士の情報交換の場を設けている。（新型コロナがなければ、地域の公民館で区長、民生児童委員との交流を図りながら実施している。）

#### ○体力や生活習慣等を振り返り、改善計画の実行する 3. 34

・全国体力・運動能力調査の結果をもとに、生徒の体力に係る課題を明らかにしつつ、保健体育の基礎体力向上のための取組メニューに工夫を加えている。また、生活習慣については、全国学力学習状況調査の生徒質問紙の結果や学校生活アンケート結果を生徒及び保護者に向けて、学校通信や学年通信などを通じて周知している。さらにPTAにおいては「“新”家庭教育宣言」推進活動の取り組みとして、「早寝・早起き・朝ご飯」を実施し、保護者アンケートの結果でも、朝食の摂取率が全学年とも80%を越えるなど、良好な結果が見られている。

### 4 地域とともにある学校づくり 2. 86 評価B

#### ○地域・保護者との連携と教職員間情報共有 3. 10

・年4回の学校運営協議会を実施し、学校教育目標について学校運営協議会委員との共通理解を深め、学校の教育活動の充実に係る内容についての協議を進めている。また、各委員の立場から地域及び保護者に対して学校教育への理解や協力について働きかけを実施している。

さらに、校長のリーダーシップのもと、全教職員で地域や保護者のニーズ等の把握に努め、地域に開かれた学校づくりの実現に向けて取組を進めている。

#### ○体験的な学びをカリキュラムに位置づけ 2. 56

・1年生の地域のフィールドワークや2年生の職場体験学習、3年生の赤ちゃんふれあい体験学習など、地域の人、もの、ことに触れ、生徒一人一人の体験的な学びの場の設定を計画的に行っている。しかし、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係る活動の制限の影響もあったため、「職場体験学習」での事業所での体験活動や「赤ちゃんふれあい体験学習」の赤ちゃん抱っこ体験などの実施を断念せざるを得ない活動もあったため、評価が低いものになっている。

#### ○地域行事、ボランティア活動への参加 2. 90

・5月に小郡中学校クリーン大作戦を実施し、地域にある公園等の環境を整える活動を通して、地域の方々と触れ合いながら地域に貢献できる活動を実施するとともに、ボランティアパスポートの取組を積極的に行うなど、生徒の地域行事やボランティア活動に対する参画意識を高める取組を実施している。しかし、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係る活動の制限の影響は大きく生徒のアンケートにおいても、地域の行事にあまり参加できなかったという結果が出ており、厳しい評価となっている。

## 5 ICT活用力の育成 2.70 評価B

### ○タブレットを活用した学習の実施 2.55

・本年度は、一人一台タブレットの環境を整えながら、同時進行で授業での活用を進めるための教職員の研修に取り組んできた。教科によっては、授業の中で毎回タブレットを活用する場面を設定する積極的な教科も出てきている。しかしながら、各教師のタブレット活用スキルには差があることから、評価は低いものとなっている。

### ○計画的な情報モラル教育の実施 2.59

・一人一台タブレットの環境が整うとともに、生徒の ICT 活用に関する情報モラルの意識を高めしていく必要があった。もともと計画していた年度当初の電話会社が行っている携帯スマホ教室の実施(オンラインによる)や、技術科の中での情報モラルに関する授業にあわせて、タブレットの家庭への落ち帰りやオンライン家庭学習の実施など、ことあるごとに ICT の活用や情報モラルに関する啓発を実施している。

### ○キーボードのローマ字打ちでのタイピング50文字/分 3.06

・本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、帰りの会の合唱活動を避けて、全校生徒で毎日のタイピング練習を一定期間実施した。またタブレットにタイピング練習用のフリーソフトを設定し、昼休みや持ち帰りの際に自主的にタイピング練習ができるようにし、結果的に6月末には、全校生徒平均で1分間50文字以上を達成している。

## 6 個に応じた学びの充実 3.29 評価B

### ○「個に応じた学び」の計画的な実施 3.22

・一人一人の生徒について特に支援を要すると考えられる生徒の情報について、全職員で共有する場を設け、個に応じた学びの推進について検討するとともに、学習習慣等に関するアンケートを実施し、生徒の実態把握に努めた。

### ○保護者と教職員、専門機関をつないだ組織的な取組 3.38

・特別な支援を必要とする生徒に関して、個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成し、保護者の同意の下、丁寧な支援を実施している。特別支援教育コーディネーターを中心にSC等との専門家と保護者をつなぎ、さらに必要に応じて医療機関等とつなぐ取組を行っている。

### ○補助簿等の使用、習熟度別学習の推進 3.28

・一人一人の生徒を大切にするために、評価のあり方(補助簿等の活用)について教務主幹が提起し、全職員で共通理解を図る場を設定した。また指導方法工夫改善担当を中心に、習熟度別による少人数授業やTTによる授業を計画的に実施している。

## 7 教職員の資質向上の推進 3.13 評価B

### ○指導上の課題を協議・共有して、日常授業の改善 3.00

・全国学力学習状況調査及び福岡県学力調査の結果を分析し、学校全体の課題について、研究推進委員会で確認の上、全教職員に周知を行うとともに、生徒による授業アンケートを実施し、各教科の指導における課題の把握に努めている。また、年に1回全職員が授業研究を実施し、様々な先生方に見て頂きながら、授業改善に係る助言等の交流を進めている。

### ○組織的な共同体制のもとに研修 3.00

・校内研究推進委員会を中心に、研修内容等を協議し、年間研修計画に沿って、校内研修を

進めている。また生徒や地域の実態に応じて、授業に関すること、生徒指導に関すること、危機管理に関すること、生徒の健康上留意すべき事に関すること、人権・同和教育に関すること等、必要とする研修を実施している。

### ○組織的な人材育成 **3. 38**

・福岡県教育委員会が示す人材育成指標を参考に個々の教職員のキャリアステージに応じた研修を実施し、教職員相互の協働的な人材の育成に努めている。

## 8 生小中9年間を見通した指導体制の充実 **3. 20** 評価B

### ○小中で共通理解し、統一した授業改善や生徒指導 **3. 07**

・毎年、夏季休業期間中に小中合同研修会を実施していたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全体での合同研修会が実施できなかった。そのため、生徒支援加配やまちづくり担当教師を中心に、情報交換等を行ってきた。また、今年は新学習指導要領の完全実施の年となったことを受け、小学校の外国語科の授業参観に、英語科の教員が参加するなど、新たな取組も実施した。

### ○小学校での学習・生活の状況を踏まえた指導の工夫 **3. 13**

・新入生入学前に小中連絡会を実施し、新入生の実態について、担当学年が情報を入手し、入学後2ヶ月を経過したところで、再度連絡会を実施する。その際の情報に基づき、学習における支援や学校生活における支援等について検討・修正し、丁寧な指導に当たっている。本年度は、6月に実施予定であった2回目の連絡会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたので、生徒支援加配が特に必要と思われる生徒についての情報交換を実施した。

### ○学習の習慣化に向け、保護者と連携した取組 **3. 39**

・小中学校で協議・検討して作成した「家庭学習の手引き」を毎年、PTA 総会の資料に掲載し、折を見て、家庭学習の促進を依頼している。また毎年、生徒の実態等に即して、内容の検討・見直しを行い、より生徒の実態に応じた手引きにしている。また、学期末に実施している保護者との教育相談においても家庭での学習の在り方について話題としながら適宜アドバイスをしている。

## 9 働き方改革の推進 **2. 54** 評価B

### ○効率的・協働的な業務遂行、時間外勤務の削減 **2. 55**

・教職員個々の超過勤務の縮減への意識を高めるために、教職員の長時間勤務の実態をグラフにし、提示をすることで見える化を図っている。

しかしながら、現状としてはコロナ対策をしながらの日々の教育活動となっており、急な変更、オンラインによる活動の継続など、急な対応を迫られることが増えており、教職員の実感として、非効率的な業務遂行になっている現状がある。

### ○業務改善の効果的な方策について共通理解 **2. 53**

・各教職員の「日常の授業の在り方」や「生徒指導」、校務分掌に係る「事務作業」等について、負担を軽減するような具体策について、有効な情報の提供ができていない。タブレットの導入によって、負担が軽減できるような具体的な方策(文書のペーパーレス化→印刷の必要が無くなる)の実施については、まだまだ検討していく必要がある。

### ○定時退校、年休取得と会議等時間短縮の取組 **2. 53**

・毎週月曜日を「ノー部活動デー」「定時退庁日」と位置づけ、1年間実施するとともに、部活動においても小郡市部活動基本方針に則して、週に2日の休みを設けるなど実行している。また、校内研修や職員会議等も時間外に係ることはほとんど無かった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、いつ誰が出勤停止になるかわからない状況でもあり計画的な年休の取得などが難しい。

## 10 人権・同和教育の啓発推進

3.37 評価B

### ○人権の視点に立った温もりある教育活動 3.43

- ・「福岡県人権教育推進プラン」に沿った取組を進め「部落差別解消推進法」や「福岡県部落差別推進条例」等の研修を実施し、人権を考える日を定期的に設定し、人権・部落問題学習の取組を行い、11月の人権学習保護者公開・学級分会を開く等、保護者啓発にも力を注いだ。また、教室環境づくりと集団づくりに力を入れ、いじめ・不登校の予防と解消に努め、支え合う人間関係づくりを実施している。

### ○日常的な人権課題について組織的な共有 3.20

- ・人権・同和教育を進める中で、教師自身の人権感覚・人権意識を高めるための校内研修を計画的に実施し、教師が隠れた人権カリキュラムを意識した上で、生徒一人ひとりを大切にし、差別・いじめを許さない集団づくりに努めた。

### ○生徒が自ら解決しようとする力の育成 3.47

- ・「差別を見抜き、差別を許さない、そして差別をなくそうとする」行動ができるような生徒を育成することを目標とし、「確かな人権感覚」を育てるためのカリキュラムの実施や人権に視点を充てた教材の積極的な活用等に取り組む事が出来ている。



大項目	未来に向かう「心」の育成	評価		小郡市立小郡中学校	令和3年度 学校評価報告シート	
		3.33	B			
小項目		評価	小項目の評価基準(例)		◎改善策	
1	子どもたちの「志」や「自律の心」を育むために、「いただく」(夢や願いをいただき、課題や目標を明らかにする)→「いどむ」(繰り返し目標に挑み、人ともに学びを深める)→「いかす」(学びを振り返り、成果と課題をいかして自ら学びを最適化する)の過程を大切に教育活動を進めている。	3.19	④ 進めている。	◎子どもたちの「志」や「自律の心」を育むため「キャリアパスポート」の活用を充実を図るとともに、学校の全ての教育課程において、「いどむ」取組及び「生かす」取組を計画に意図的に位置づけ、意識的に取組を進めていく。そのための学校行事計画や各教科の単元計画において明確に記載するなどの工夫を行う。		
	〔担当者〕 清水恵子	B	③ どちらかといえば進めている。			
			② あまり進めていない。			
			① 進めていない。			
	「いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応」について、子どもの声を丁寧に聞き取り、教職員・専門家・保護者等をつないだ組織的な対応を行っている。	3.46	④ 行っている。		◎いじめや不登校等、生徒指導に係る対応について、学校生活環境多面調査や不登校予防診断チェックリストなど、根拠に基づく生徒の実態把握の実施及び教職員間の情報共有の在り方に関する研修の実施。併せて、不登校の未然防止につながる専門家等との連携の在り方及び保護者への啓発等の充実を図るための取組の構築。	
	〔担当者〕 古賀孝一	B	③ どちらかといえば行っている。			
		② あまり行っていない。				
		① 行っていない。				
生徒指導の機能(自己決定・共感的人間関係・自己存在感)を生かした授業・指導を行っている。	3.34	④ 行っている。	◎生徒指導の機能(自己決定・共感的人間関係・自己存在感)を生かした日常的な授業・指導の在り方について教職員の理解を深める取組を実施する。			
〔担当者〕 池田佳太郎	B	③ どちらかといえば行っている。				
		② あまり行っていない。				
		① 行っていない。				
大項目	生きて働く「知」の育成	評価				
		3.11		B		
2	社会の変化に対応できる「真の学力」を育むために、「学力向上プラン」を共通実践し、「主体的・対話的で深い学び」による授業を日常化している。	3.00	④ 日常化している。	◎教職員の入れ替えに伴う本校研究主題「主体性をもって、協働しながら課題を解決できる生徒の育成」の具体的な授業の取組についての理解不足を補うための校内研修の進め方について検討や見直しを実施する。		
	〔担当者〕 池田佳太郎	B	③ どちらかといえば日常化している。			
			② あまり日常化していない。			
			① 日常化していない。			
	子どもの基礎学力を高め「低位層」の子どもたちを減らすため、習熟・徹底のための日常的・継続的な取組を確実にしている。	3.19	④ 行っている。		◎生徒個別の各種学力調査結果の活用の活性化を図るとともに、「低位層」にある生徒への日常的・継続的で持続可能かつ有効な手立てとなる方策の検討を進める。	
	〔担当者〕 池田佳太郎	B	③ どちらかといえば行っている。			
			② あまり行っていない。			
			① 行っていない。			
	各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学年の取組等を相互に関連付けた指導を行っている。	3.14	④ 行っている。			◎体験的な活動に限られる中、道徳、総合的な学習、特別活動、学年の取組等の目的を明確にし、相互の関連性を職員間で十分に理解するための時間の確保を検討していく。
〔担当者〕 田中聡之	B	③ どちらかといえば行っている。				
		② あまり行っていない。				
		① 行っていない。				

4≥A>3. 5≥B>2. 5≥C>1. 5≥D

大項目	健康で逞しい「体」の育成	評価		小郡市立小郡中学校	令和3年度 学校評価報告シート	
		3.16	B			
小項目		評価	小項目の評価基準(例)		◎改善策	
3	「体力向上プラン」を共通理解・共通実践し、子どもたちの基礎体力向上や運動への意識づくり・態度づくりに取り組んでいる。	3.17	④ 取り組んでいる。	◎体力向上プランをもとに関連する教科や部活動における基礎体力向上に向けた取組について、全教職員が共通理解を図る場を設定する。		
		B	③ どちらかといえば取り組んでいる。			
			② あまり取り組んでいない。			
	[担当者] 今熊尚紀		① 取り組んでいない。			
	子どもたちの「身を守る力」を育むために、地域と連携して「防災」「安全」「健康」をテーマに計画的に取り組んでいる。	3.30	④ 取り組んでいる。		◎校区内の危険箇所について、保護者・地域との連携を基に情報収集に努め、防災マップ等の修正を適宜行う。 ◎警察の交通安全指導教室や防災訓練における消防署等の関係機関との連携を継続し、地域を巻き込んだ訓練の在り方について検討する。	
		B	③ どちらかといえば取り組んでいる。			
	② あまり取り組んでいない。					
[担当者] 古賀孝一		① 取り組んでいない。				
体力や生活習慣等を振り返り、改善のための計画を立てさせ、確実に実行させている。	3.00	④ 取り組んでいる。	◎基本的な生活習慣等に関するアンケート結果等について、保護者に還元することによって、家庭での生活習慣等に関する課題意識を高めるとともに協力・連携の充実を図る。			
	B	③ どちらかといえば取り組んでいる。				
		② あまり取り組んでいない。				
[担当者] 今熊尚紀		① 取り組んでいない。				
大項目	地域とともにある学校づくり	評価				
		2.86		B		
4	学校運営協議会との信頼関係を基盤に地域・保護者との連携協働による教育活動について協議を深め、教職員間でも情報を共有している。	3.10	④ 共有している。	◎学校運営協議会委員との連携を強化するため、信頼関係構築のための情報提供等を丁寧に実施する。		
		B	③ どちらかといえば共有している。			
			② あまり共有していない。			
	[担当者] 小田哲也		① 共有していない。			
	子どもたちの「ふるさと愛」を育むために、地域・校区のよさ(「人・もの・こと」)を生かした体験的な学びをカリキュラムに位置づけて実践している。	2.56	④ 実践している。		◎子どもたちの「ふるさと」に対する意識の高揚を図るために、総合的な学習の時間等における体験的な学習の目的の中に意図的に「ふるさと」を意識するような文言を含めるように努めていく。	
		B	③ どちらかといえば実践している。			
			② あまり実践していない。			
	[担当者] 清水恵子		① 実践していない。			
	生徒に対して地域行事やボランティア活動に参加するように促している。	2.90	④ できている。			◎地域の方達との連携による「小郡中学校クリーン大作戦」の継続的な実施およびボランティアパスポートの取組の活性化を図る。
	B	③ どちらかといえばできている。				
		② あまりできていない。				
[担当者] 徳永淳子		① できていない。				

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

大項目	ICT活用力の育成	評価		小郡市立小郡中学校	令和3年度 学校評価報告シート	
		2.70	B			
小項目		評価	小項目の評価基準(例)		◎改善策	
5	タブレットを活用して学習を行っている。	2.55	④	週2回以上行っている。	◎個々の教職員によって活用頻度に差があるため、積極的に活用している教職員の実践を周知するとともに、校内研究との関連を図った「授業におけるタブレットの活用場面」等について検討を進める。	
	③		週1回程度行っている。			
	〔担当者〕 松島 光	B	②	月2～3回くらい行っている。		
			①	月1回程度行っている。		
	教育課程に位置づけた情報モラル教育を計画的に行っている。	2.59	④	行っている。		◎技術・家庭科の「技術分野」における情報モラル教育を確実に実施しているが、そのことについて全教職員の共通理解を図る場面を設定していく。 ◎全教職員が「担当者任せ」に終わらない意識を培うための取組の周知を進める。
	③		どちらかといえば行っている。			
〔担当者〕 松島 光	B	②	あまり行っていない。			
		①	行っていない。			
キーボードのローマ字打ちでのタイピングが学年の目標レベルに達している。(1分間に打てる文字数・小学校中学年30字以上、高学年40字以上、中学生50字以上)	3.06	④	学級の8割程度が目標レベルに達している。	◎生徒が朝自習等の帯の時間に取組を位置づける期間を設け、タイピングに対する意識を高めるきっかけをつくっていくとともに、日常の授業におけるタブレット活用の活性化を図る。		
③		学級の6割程度が目標レベルに達している。				
〔担当者〕 松島 光	B	②	学級の4割程度が目標レベルに達している。			
		①	学級の2割以下が目標レベルに達している。			
大項目	個に応じた学びの充実	評価				
		3.29	B			
6	学力保障・個性伸長のため、個別学習やグループ学習、繰り返し学習、習熟の程度に応じた学習、課題選択学習など、「個に応じた学び」(個別最適な学び)を一人一人の子どもの特性や教育的ニーズ、興味・関心に応じ計画的に行っている。	3.22	④	行っている。	◎生徒の学力に関する取組の頻度、学習環境等についてアンケート等による実態把握を実施するとともに、「個に応じた学び」につながる取組の在り方について検討する。	
	③		どちらかといえば行っている。			
	〔担当者〕 原 裕子	B	②	あまり行っていない。		
			①	行っていない。		
	特別支援教育に関し、「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者と教職員、専門機関をつないだ丁寧な取組を組織的に行っている。	3.38	④	行っている。		◎「個別の支援計画」及び「個別の指導計画」の確実な作成と必要に応じて適宜見直しを行うとともに、関係職員及び関係生徒保護者との信頼関係構築のための密な連携を促進する。
	③		どちらかといえば行っている。			
	〔担当者〕 原 裕子	B	②	あまり行っていない。		
			①	行っていない。		
	補助簿等を活用し、子どものつまづきや習熟の程度に応じた学習指導を行うとともに、自身の学習指導を評価し、改善を図るなど、指導と評価の一体化を図っている。	3.28	④	行っている。	◎日常的な授業における生徒の変容等の記録を丁寧に行うとともに、校内に於いて効果をあげている教職員の授業における「コツ」や「意識していること」等について周知する。	
③	どちらかといえば行っている。					
〔担当者〕 藤上健一	B	②	あまり行っていない。			
		①	行っていない。			

4 ≧ A > 3. 5 ≧ B > 2. 5 ≧ C > 1. 5 ≧ D

大項目	教職員の資質向上の推進	評価		小郡市立小郡中学校	令和3年度 学校評価報告シート	
		3.13	B			
小項目		評価	小項目の評価基準(例)		◎改善策	
7	学力調査結果等をもとに指導上の課題を全教職員で協議・共有して、日常授業の改善を行っている。	3.00	④ 行っている。	◎校内研修推進委員会を中心に、学力調査結果等で確認できた課題の改善策について練り上げ、全教職員への情報提供とあわせて意見交換等を活性化する。		
		B	③ どちらかといえば行っている。			
			② あまり行っていない。			
	[担当者] 池田佳太郎		① 行っていない。			
	組織的な共同体制のもとに研修を行い、ICT教育をはじめとする教育動向への理解を深め、教職員としての資質を高めている。	3.00	④ 高めている。		◎校内研修推進委員会を中心に、最新の教育動向に関する情報の収集に努め、個々の教職員の資質高揚のための情報提供や支援を実施できるよう努めていく。	
		B	③ どちらかといえば高めている。			
	② あまり高めていない。					
[担当者] 池田佳太郎		① 高めていない。				
校内研修が計画的に位置付けられ、組織的な人材育成を図っている	3.38	④ 図っている。	◎校内研修の計画的な実施について引き続き行っていくとともに、組織的な人材育成の在り方について、経験の豊富な教職員の意見等を踏まえた校内体制の構築に努める。			
	B	③ どちらかといえば図っている。				
		② あまり図っていない。				
[担当者] 小田哲也		① 図っていない。				
大項目	小中9年間を見通した指導体制の充実	評価				
		3.20		B		
8	小中学校間で児童生徒の学力実態・生活実態・家庭状況等を共通理解し、統一した方針や計画を基に授業改善や生徒指導を行っている。	3.07	④ 行っている。	◎小中学校間で児童生徒の実態や家庭状況等について共通理解を図る場の設定を継続して実施し、指導方法や指導内容について効果が上がった取組を共有する場を設定する。		
		B	③ どちらかといえば行っている。			
			② あまり行っていない。			
	[担当者] 仲野公美		① 行っていない。			
	(中学校)小学校での学習・生活の状況を踏まえた指導の工夫を行っている。	3.13	④ あてはまる。		◎小学校からの情報をもとに、生徒の学習・生活の状況の変化に応じて、効果ある指導の在り方について適宜修正を実施する。	
		B	③ どちらかといえばあてはまる。			
			② あまりあてはまらない。			
	[担当者] 池田佳太郎		① あてはまらない。			
	特別な支援を必要とする生徒について、中1ギャップ解消のための小中連携を図っている。	3.39	④ 取り組んでいる。			◎小中学校間で児童生徒の学力実態・生活実態・家庭状況等について共通理解を図る場を継続するとともに、その対応についての効果を検証し、適宜修正ができる体制について検討していく。
		B	③ どちらかといえば取り組んでいる。			
			② あまり取り組んでいない。			
	[担当者] 古賀孝一		① 取り組んでいない。			

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

大項目	働き方改革の推進	評価		小郡市立小郡中学校	令和3年度 学校評価報告シート	
		2.54	B			
小項目		評価	小項目の評価基準(例)		◎改善策	
9	効率的・協働的な業務遂行に努め、時間外勤務の削減に努めている。	2.55	④ そう思う。	◎個々の教職員が効率的・協働的な業務遂行に努め、時間外勤務の削減に努めることができるような教職員の雰囲気作り及び校内体制の改善を継続的に進めていく。		
	〔担当者〕 小田哲也	B	③ どちらかといえばそう思う。			
			② あまり思わない。			
	〔担当者〕 小田哲也	B	① 思わない。			
			2.53		④ そう思う。	◎運営委員会を中心に勤務状況や業務改善に係る効果的な方策等の情報収集に努め、実施可能な取組等を試験的な導入により取捨選択できるような体制の構築を進めていく。
	〔担当者〕 小田哲也	B	③ どちらかといえばそう思う。			
② あまり思わない。						
〔担当者〕 小田哲也	B	① 思わない。				
		2.53	④ 取り組んでいる。	◎月2回の定時退校の位置づけを継続するとともに、定時退校日、当日に向けた教職員の準備についてルーティン化を図る。 ◎会議研修等の時間短縮については、継続して取り組んでいく。		
〔担当者〕 小田哲也	B	③ どちらかといえば取り組んでいる。				
		② あまり取り組んでいない。				
〔担当者〕 小田哲也	B	① 取り組んでいない。				
		大項目	人権・同和教育の啓発推進		評価	
		3.37	B			
10	「つながる心」や「関わり合い」を大事にする人権の視点に立った温もりある教育活動を学校教育全体で進めている。	3.43	④ 進めている。	◎新型コロナウイルス感染拡大防止に係る制限の中、「つながる心」や「関わり合い」を大事にする意識を育むため、各教育活動における「目的」について人権の視点の位置づけ等を明確に示していく。		
	〔担当者〕 仲野公美	B	③ どちらかといえば進めている。			
			② あまり進めていない。			
	〔担当者〕 仲野公美	B	① 進めていない。			
			3.20		④ 共有している。	◎子どもを取り巻く日常的な人権課題についての情報収集に努め、適宜、全教職員による共通理解を図るとともに、教職員間の丁寧な情報交換の場の雰囲気作りに努める。
	〔担当者〕 仲野公美	B	③ どちらかといえば共有している。			
			② あまり進めていない。			
	〔担当者〕 仲野公美	B	① 共有していない。			
			3.47		④ 育てている。	
	〔担当者〕 仲野公美	B	③ どちらかといえば育てている。			
			② あまり育てていない。			
	〔担当者〕 仲野公美	B	① 育てていない。			

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D